



作:窓際ななみ



作:窓際ななみ

登場人物紹介



神無月夢来 (かんなづきむく)
高校三年生
未来観測研究部の部長



戸塚めぐり (とつかめぐり)
高校二年生
ごく普通の真面目な女の子



白河ほとり (しらかわほとり)
高校二年生
気が弱いちょっと暗めの女の子



如月舞夜 (きさらぎまいよ)
高校三年生
学園の生徒会長



言葉とは
生物が作り出した

伝達能力の一つ
である

聴覚・視覚
あるいは触覚で

それを感じ
認知することが
できる

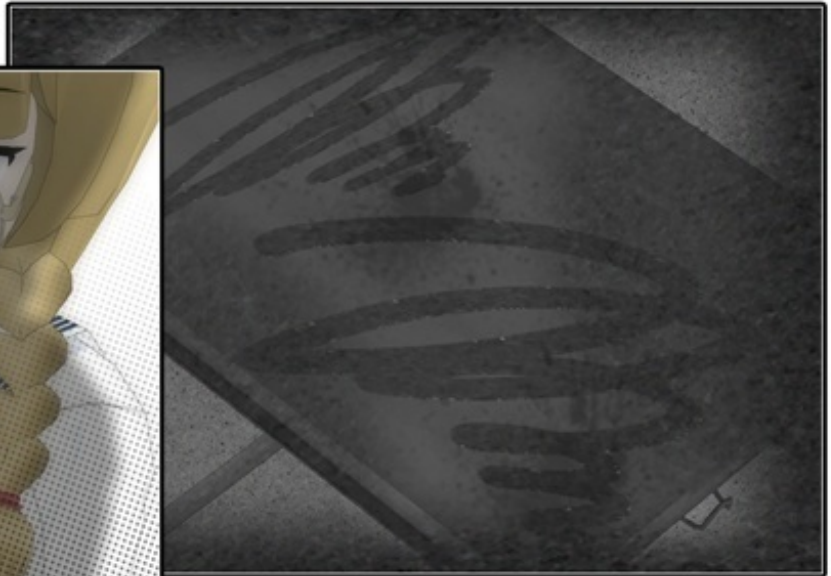
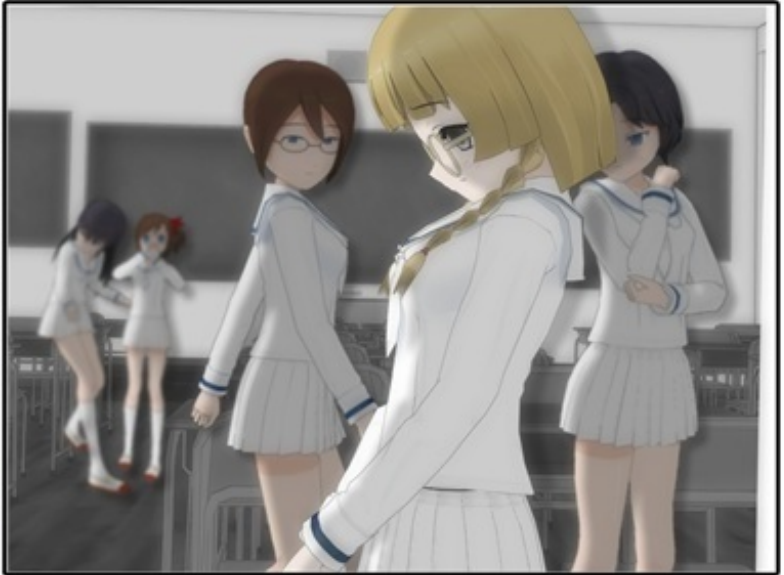
その内容は
過去に起きた発言に
限定されているが

それは

もし時間軸を超えて
未来の言葉を知ることが
できたなら

未来観測と呼べる
のかもしれない







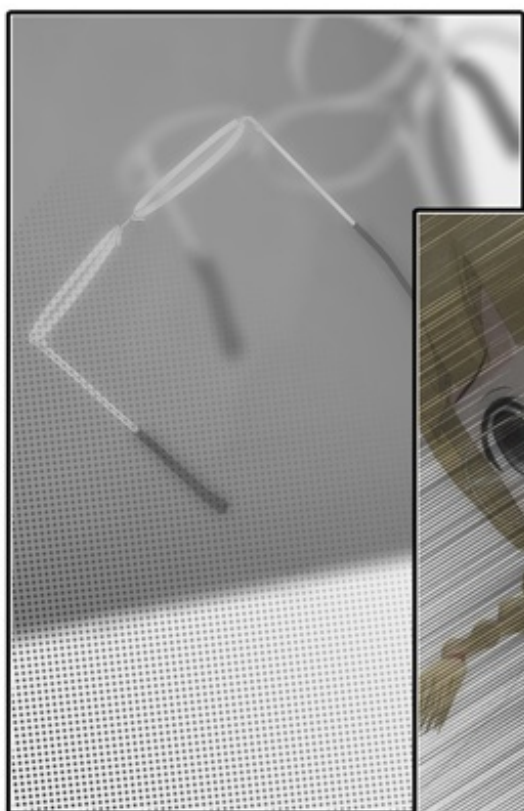
そうそう
今日は集金するから

いつもの場所に
ちゃんと来いよ



白河
おはよう

やだ…汚い机
あなたにお似合いじゃない



へえ
無視とかするんだ





そうでしたか

う…うん…
少し寝不足で…



あ…

顔色が少し
悪いようですが
大丈夫ですか？

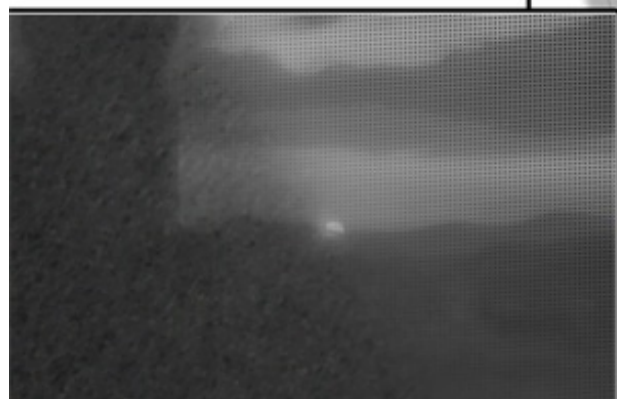


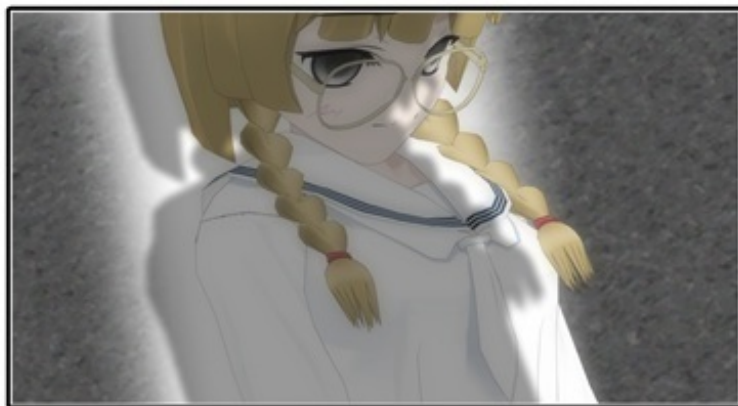
違う…



よく分からないけれど
最近頭の中に『助けて』と
声が響くようになった

誰が訴えているのか
私には何となく分かった





…たい

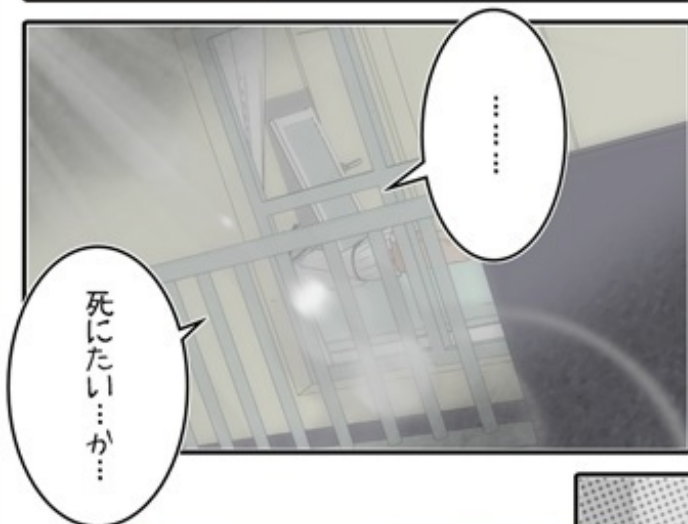
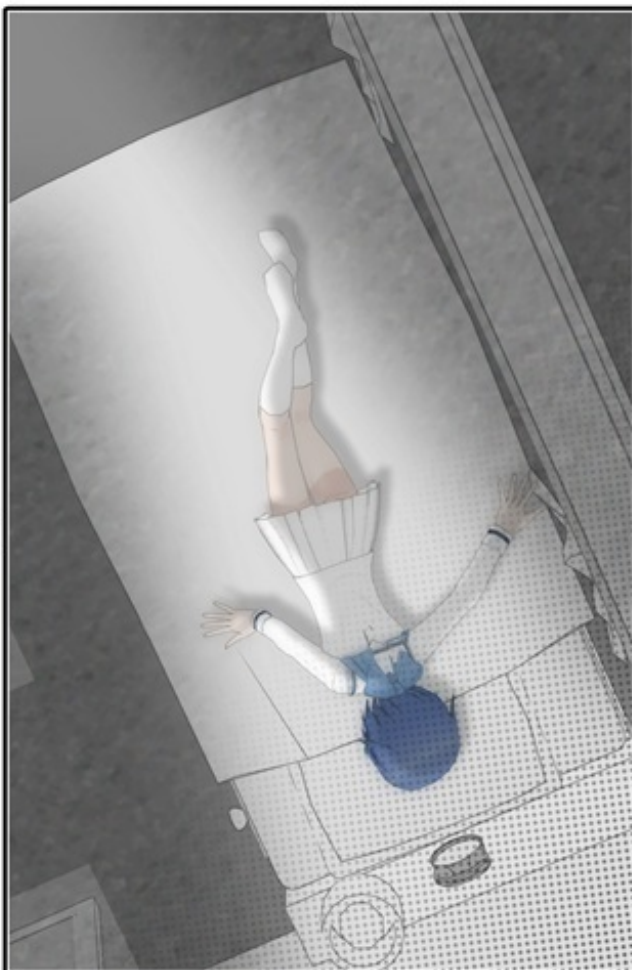
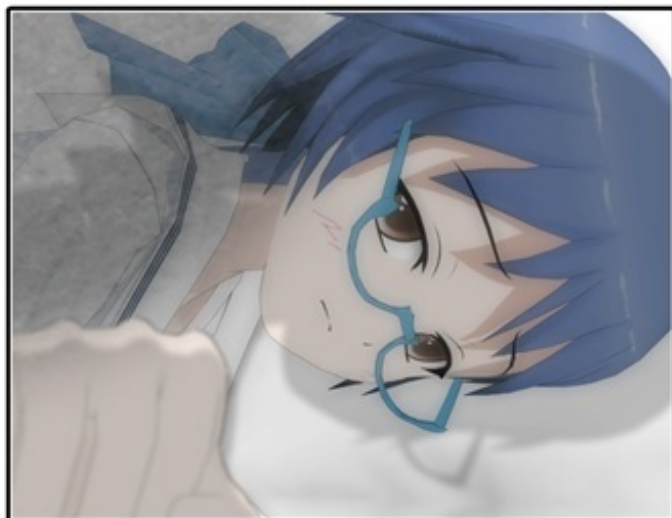
しに…たい

死にたい

死にたい

死にたい





死にたい…か…

……



彼女は
ただの同級生だ

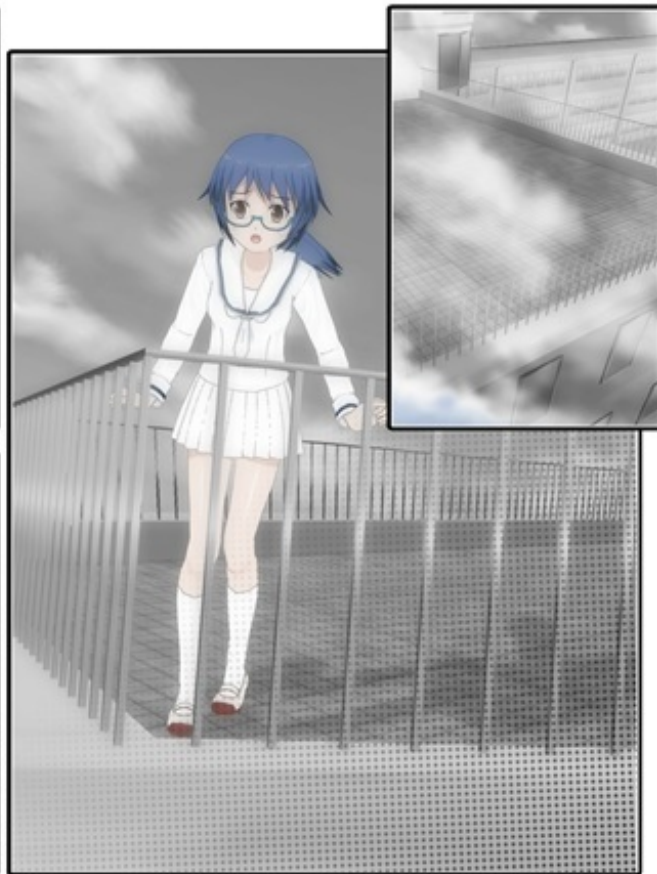


先生が彼女の友達が
きつとなんとかがして
くれるだろう

私が首を突っ込んでも
余計なトラブルが
増えるだけ…



私には…
関係ない…





私に
助けを求めないで

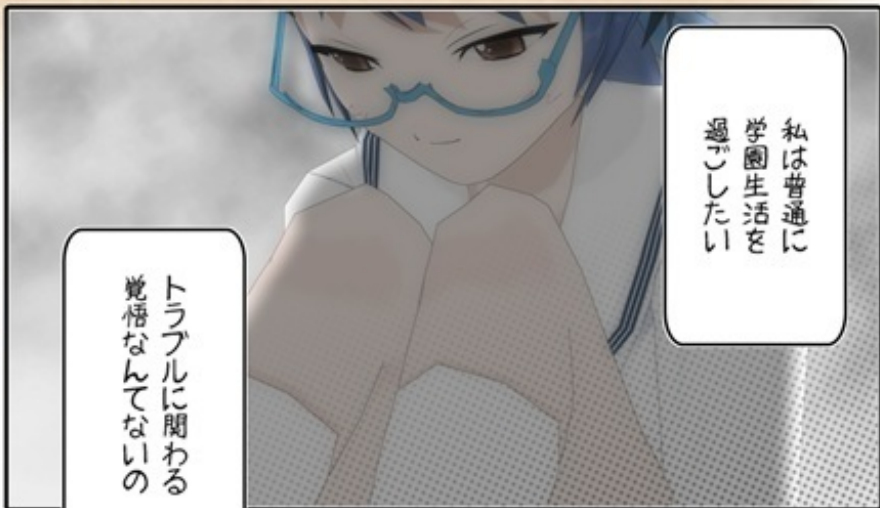


どっして
死ぬと思う位なら

誰かに相談しないの？
学校に来るの？

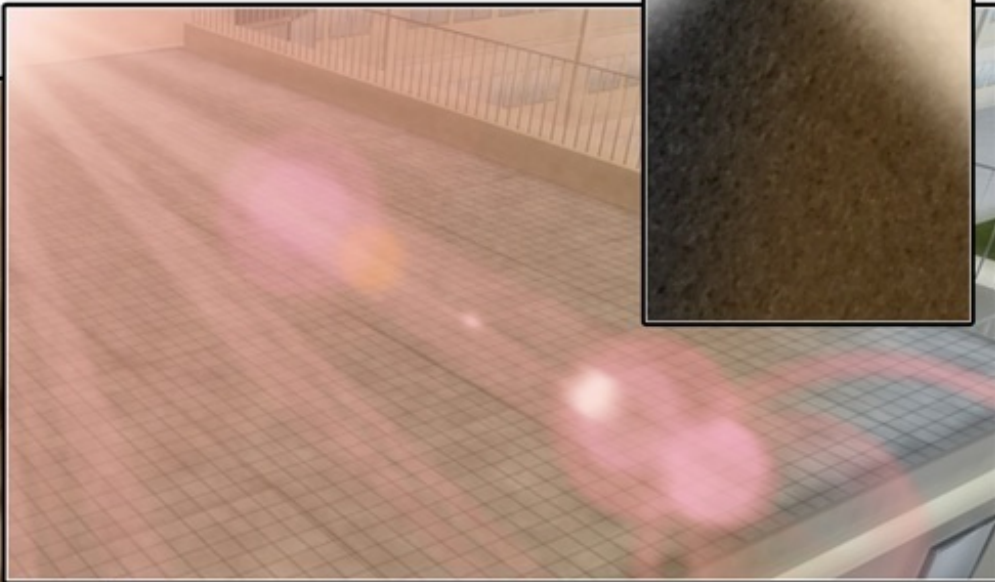
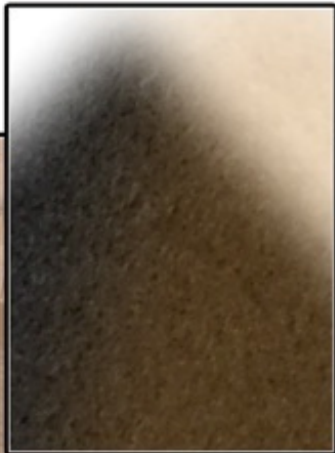


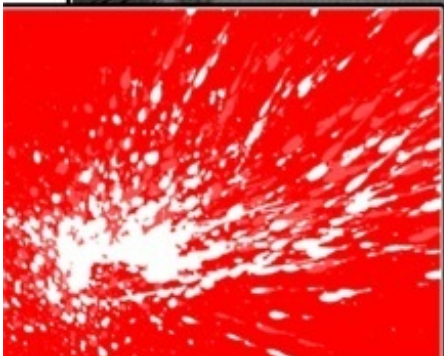
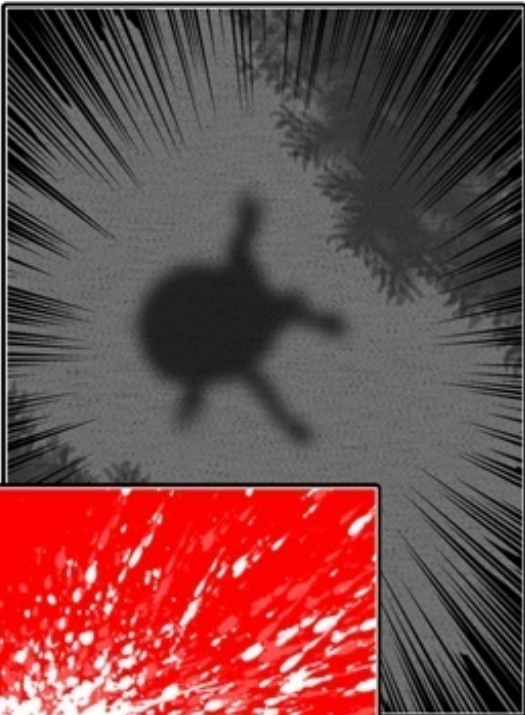
わたし…には…
関係…ない…



私は普通に
学園生活を
過ごしたい


トラブルに関わる
覚悟なんてないの








痛！！痛！！痛！！
痛！！痛！！痛！！
痛！！痛！！痛！！



どうして最後まで
苦しんで死なない
いけないの？

なんで私だけ
こんな目に合わないと
いけないの？



みんないじめられて
私を見て面白がってる

みんな気付いてるのに
助けてなんてくれない

酷い
悔しい
許さない



みんな
死ねばいいんだ



…あの娘…

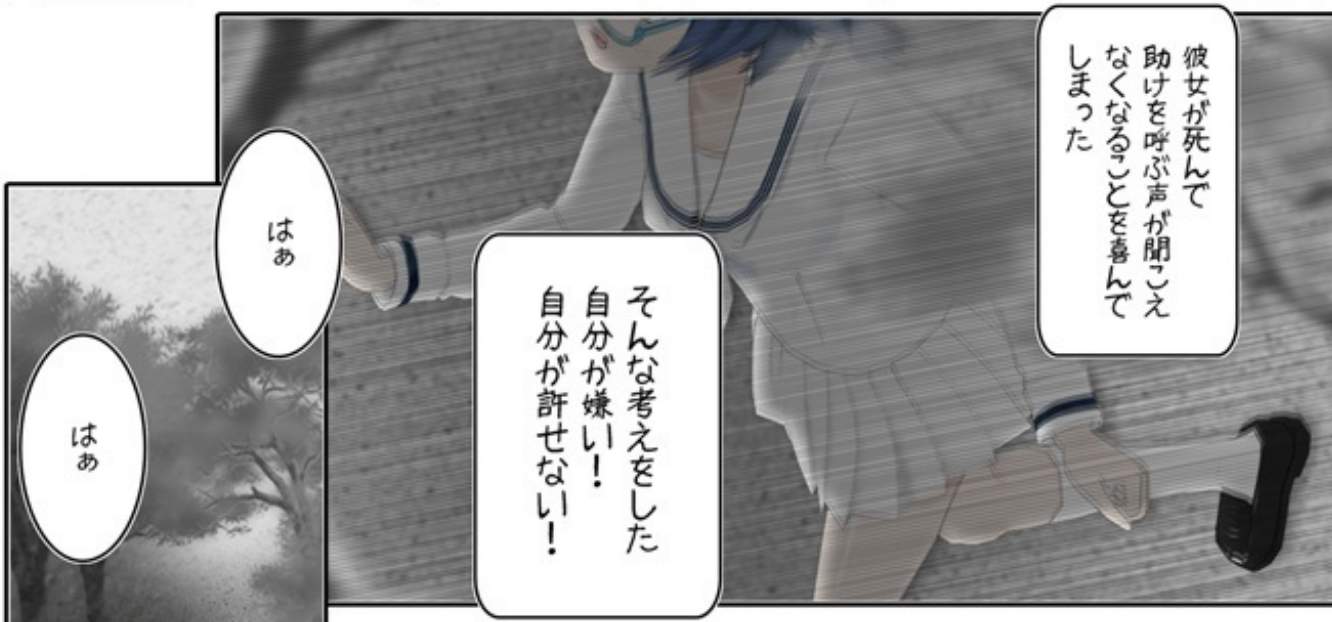
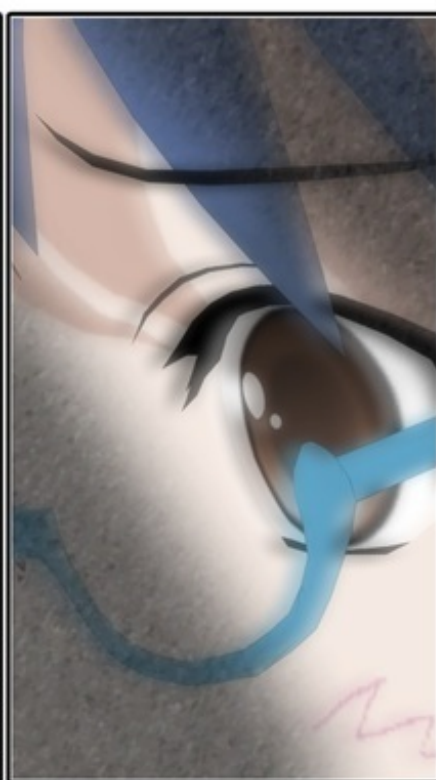
死ぬんだ…



自分を
嫌いになった



私は…
初めて…

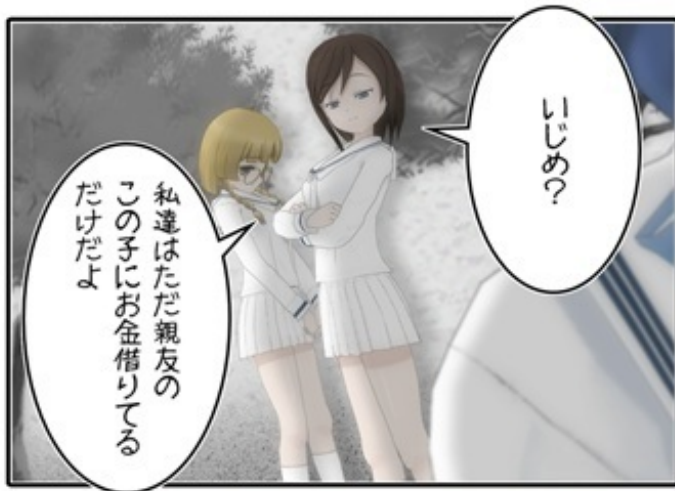


彼女が死んで
助けを呼ぶ声が聞こえ
なくなることを喜んで
しまった

そんな考えをした
自分が嫌い！
自分が許せない！

はあ

はあ



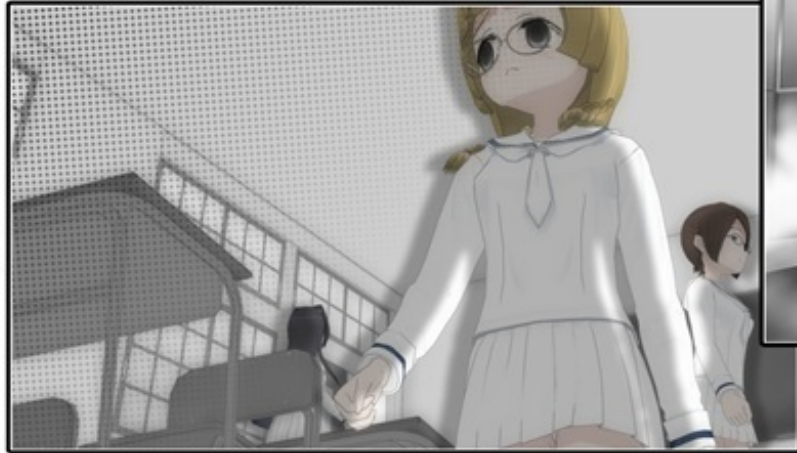




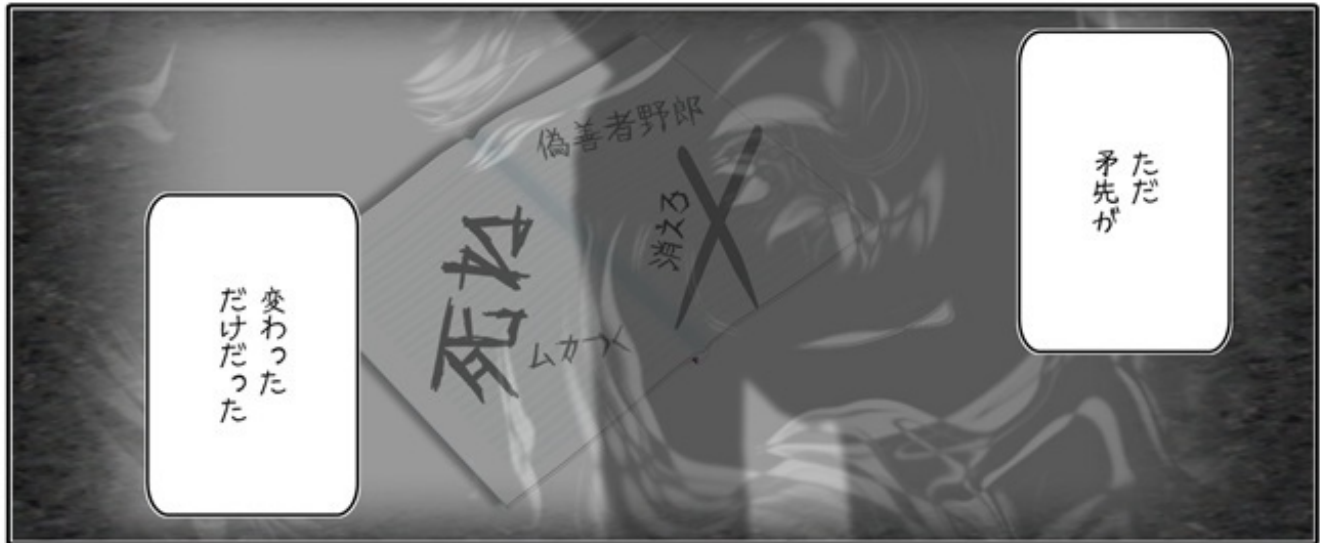
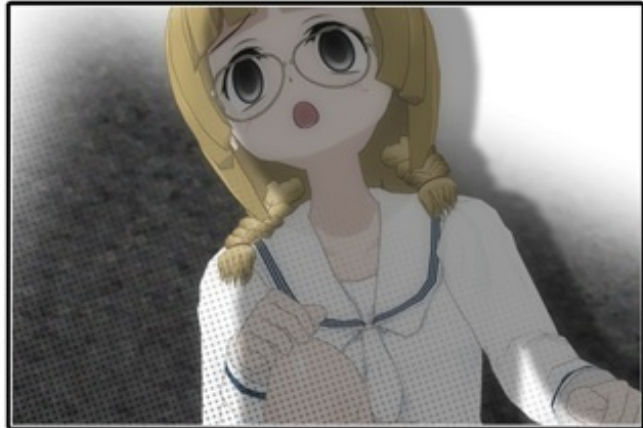
でもいじめが
無くなった訳では
なかった



あれから
私へのいじめは
無くなった



そして
少しだけ時間が
経った



変わった
だけだった

ただ
矛先が

偽善者野郎
ムカ
ムカ
ムカ

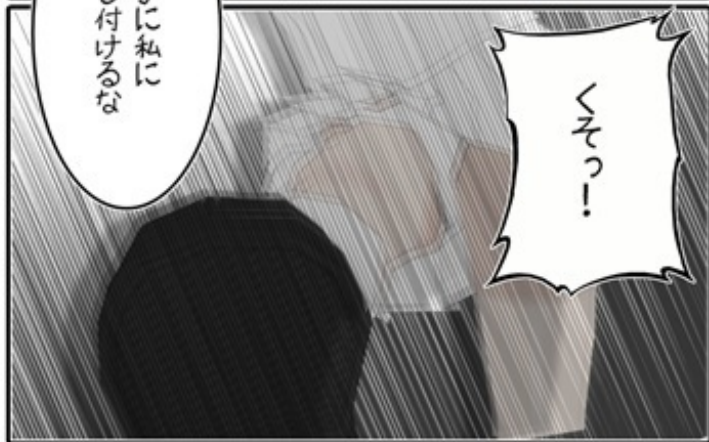


未来観測研究部

VOL.3



何が
頑張ってるんだ!



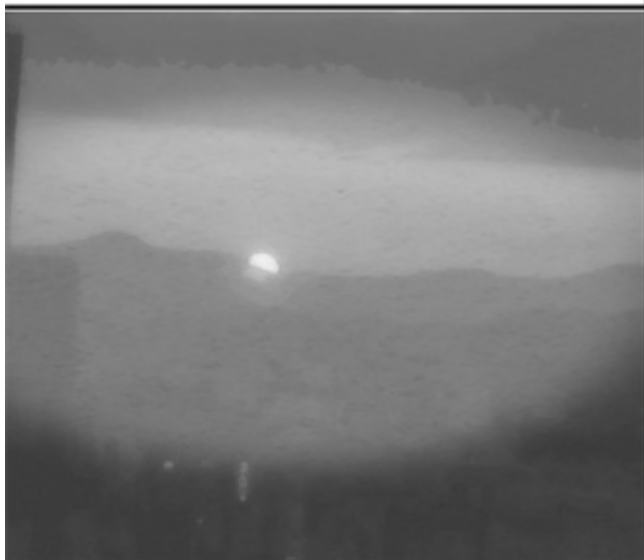
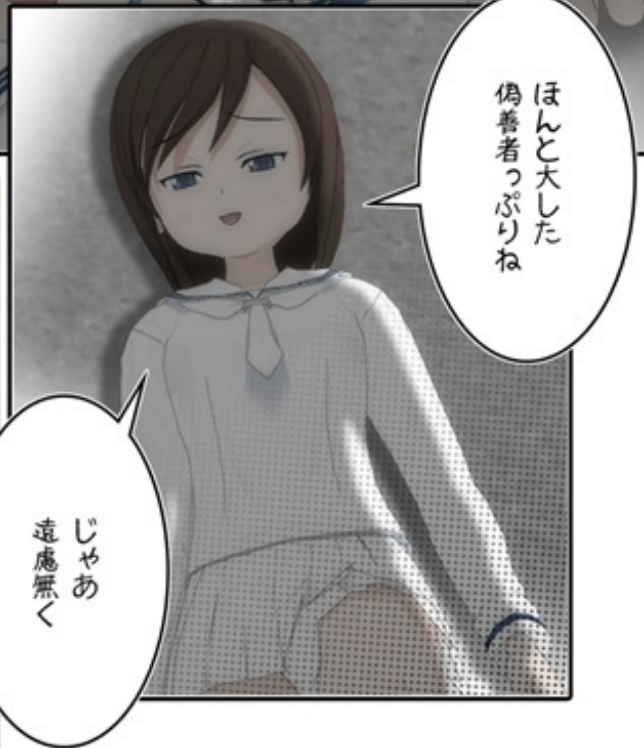
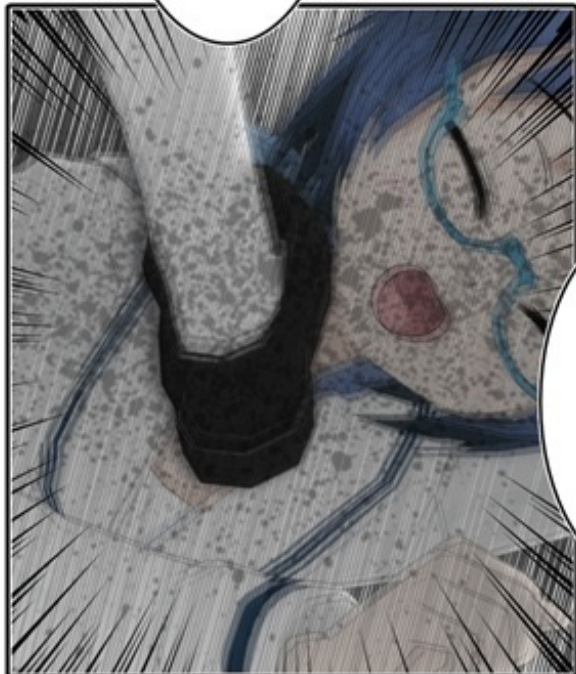
勝手に私に
押し付けるな

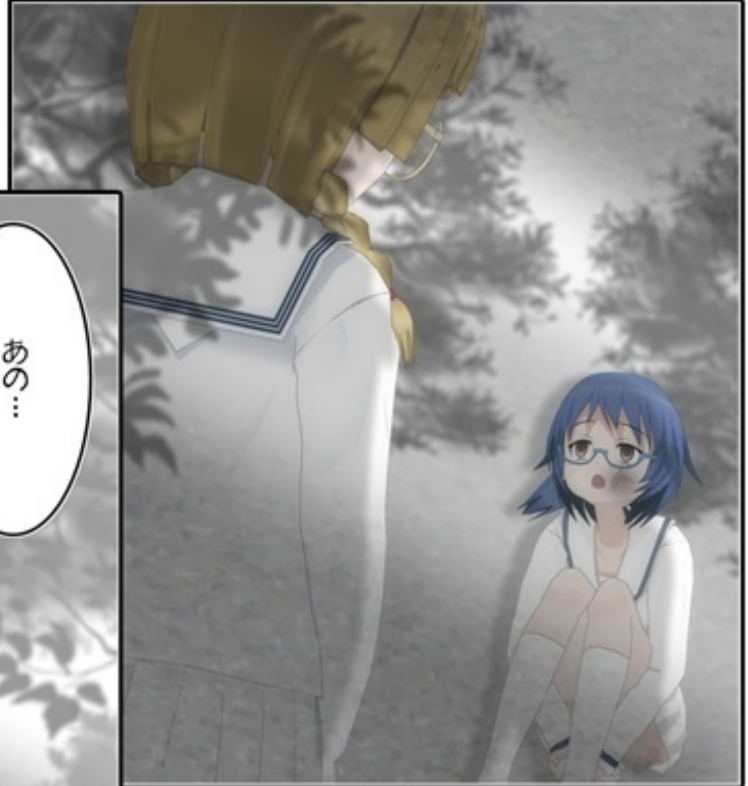
くそっ!



なんだこの成績は
もっと勉強を頑張
りなさい

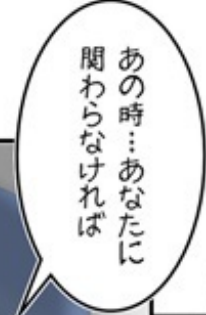
あなたは
できる子だから
頑張ってるね







私は…虚めを
見て見ないフリを
していたの



あの時…あなたに
関わらなければ



だから
これは自業自得



もしかしたら
こんな状況に
ならなかった
かもしれない



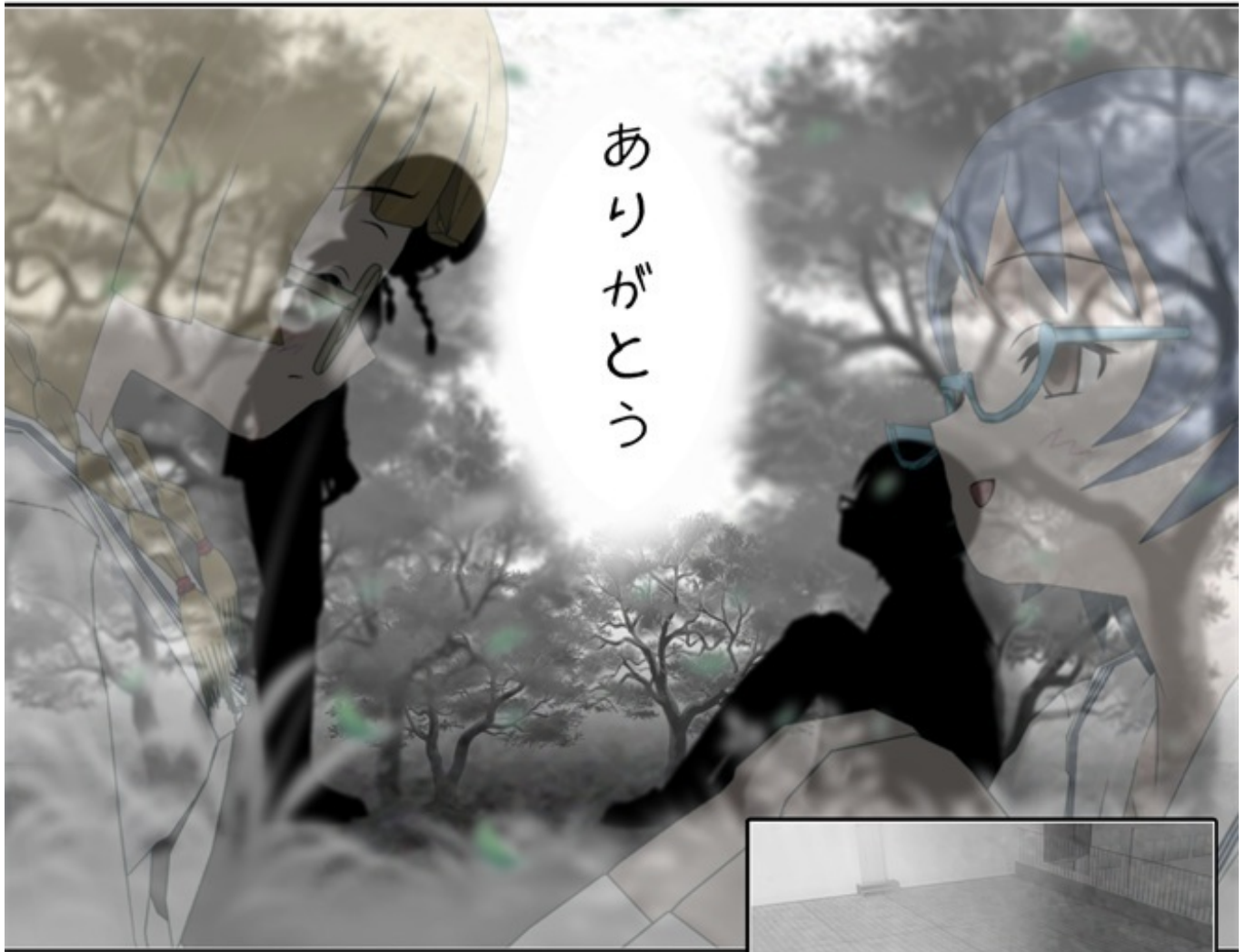
でも私は
あの時…あなたに
関わったことを



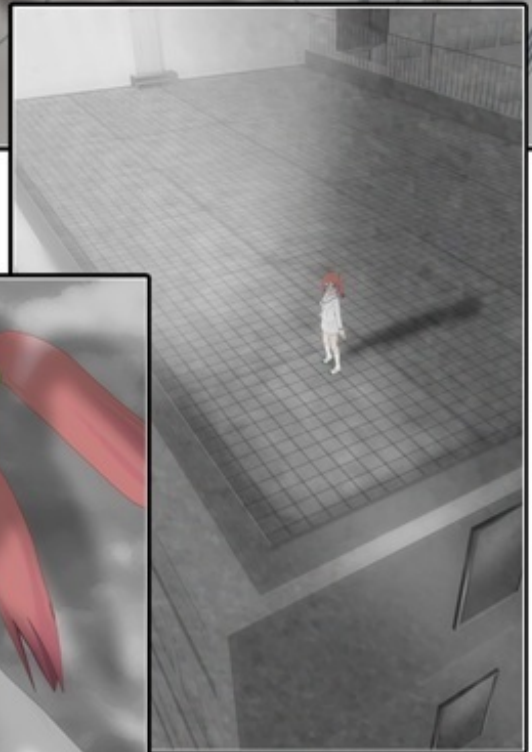
後悔したくないの
だから…謝らないで



私が今
あなたに言うべき
言葉は

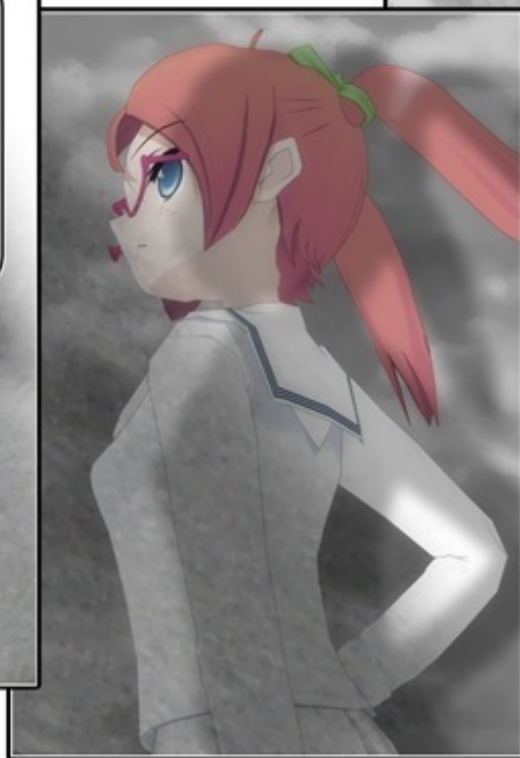


ありがとう

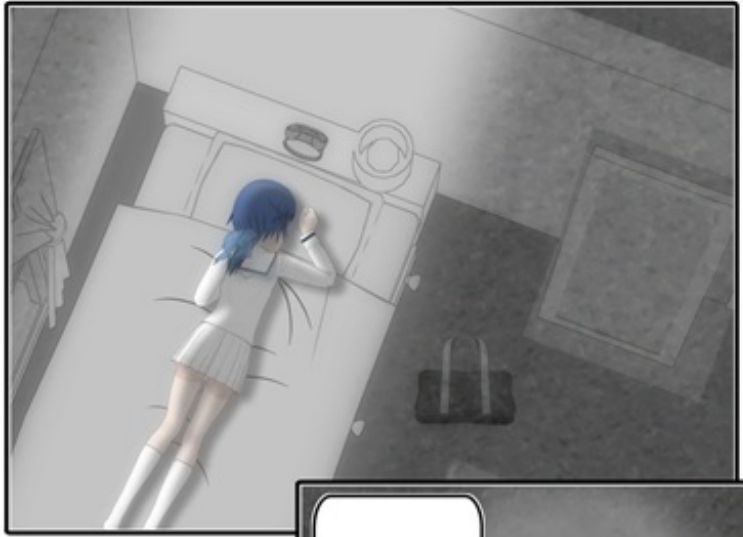


もう
私には

彼女を放っておく
ことはできない







ふふふふふふ...




結局私は...
何もできなかった...





未来観測研究部

VOL.4




あなたは
何処にいて
しまったの？

連絡網から家の方に
電話してもまだ帰って
いなかった



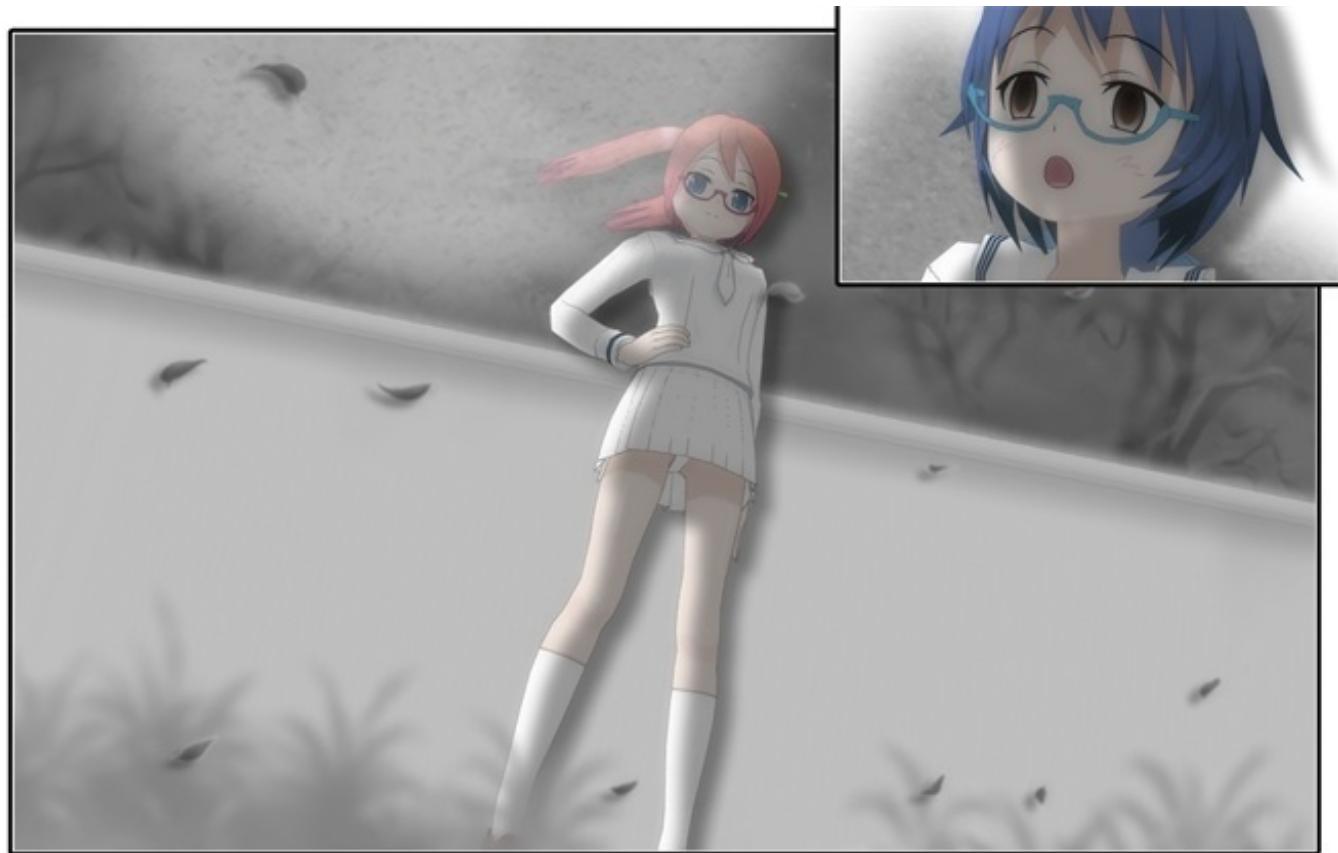
はあ



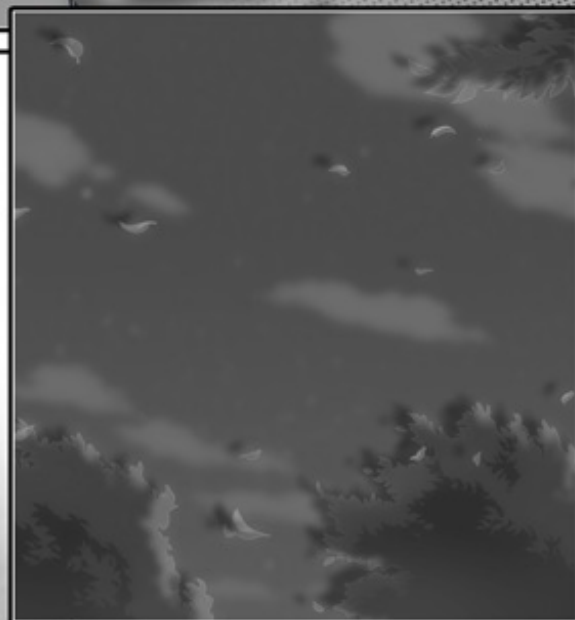
誰か探して
いるのかしら？


あなた…

はあ











どうして
私は彼女を
助けたいの？


彼女が可哀想だから
哀れんでいるの？



弱い彼女を
助けて自分は立派だと
自己満足を得たいの？

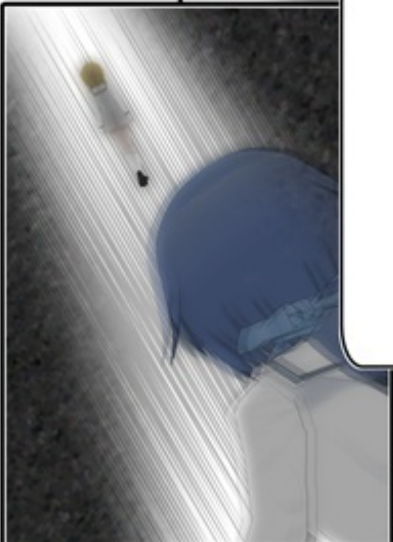


このままだと
精神が壊れてしまっ
かもしれないの...？



ああ！だから何！

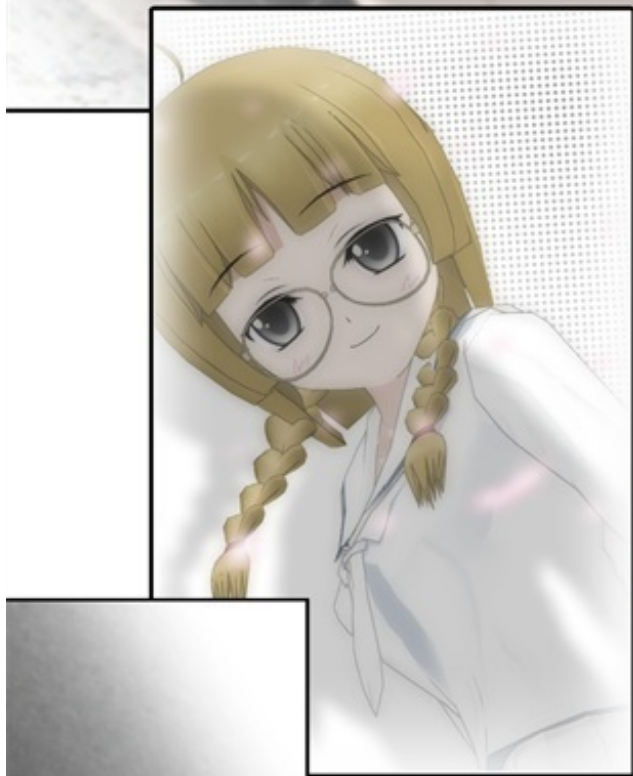
どんなに考えたって
私の答えは決まっている



私は
彼女を助けたい！



その想いは
絶対に変わらない!





学園から少し北に
行った場所に

小さな公園が
あるわ



もしかしたら
人の想いは

未来を変えるかも
しれないわね



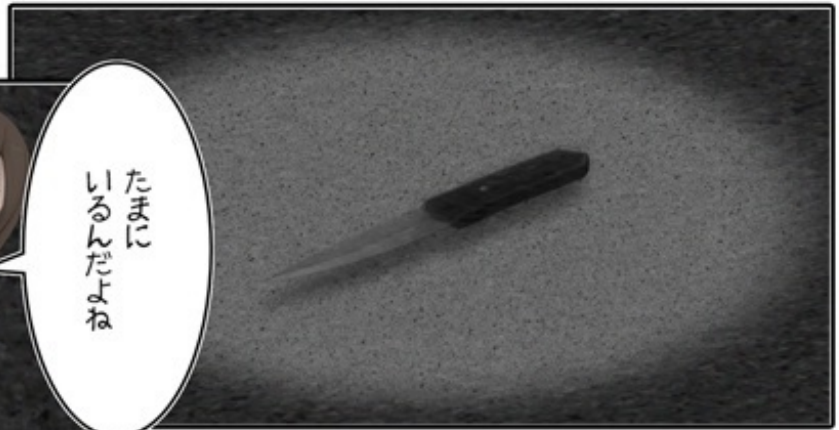
彼女が…見えた…
あの背景は…

あなたは…
そこにいるの？



絶対に

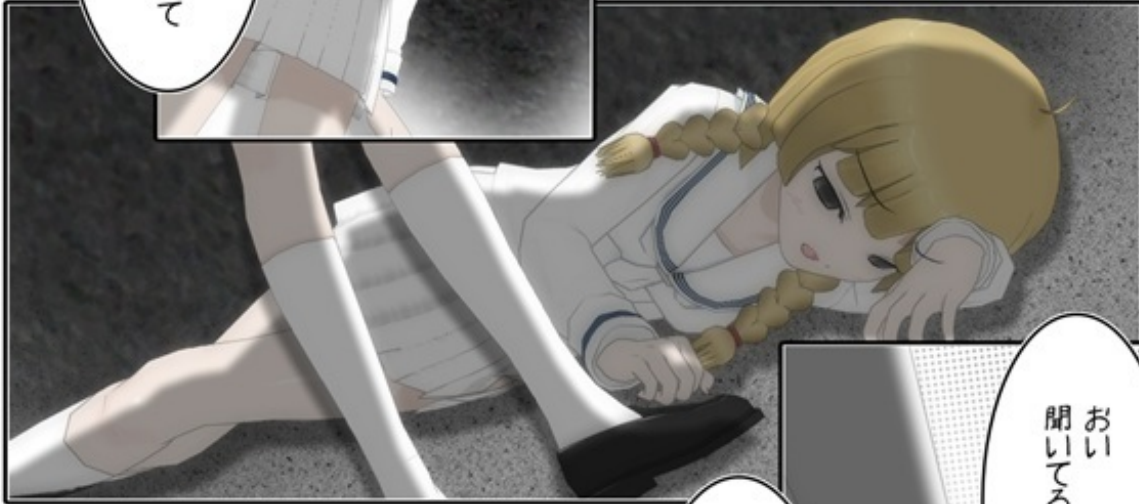
変えて
みせます！



たまたまに
いるんだよね



ナイフとか持った
だけで強くなったって
勘違いする奴



おい
開いてるのか？



責任は
とってもらおうよ



とりあえず
死ねよ





ああ
そうそう

これは
正当防衛かな



最初に脅したのは
あんだだもんね



手加減
しないから

恨むなよっ

たぬきやろ...



結局私は...
何も出来なかった...



あははははは





やめて！



おいおい
最初にナイフで
脅してきたの

そっちなんだぜ
どっちが非道いんだか



ひ…非道い…！

なんで…
こんなん…！



は？

許すわけ無いじゃん



彼女が…！

お…お願
いもうさせないから
許してあげて



またいつ裏われるか
分からないからな

はじめはつけて
もらわないとね



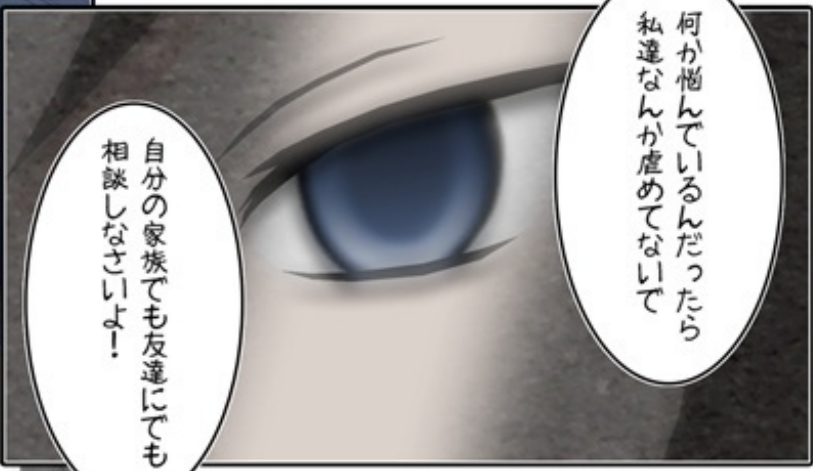
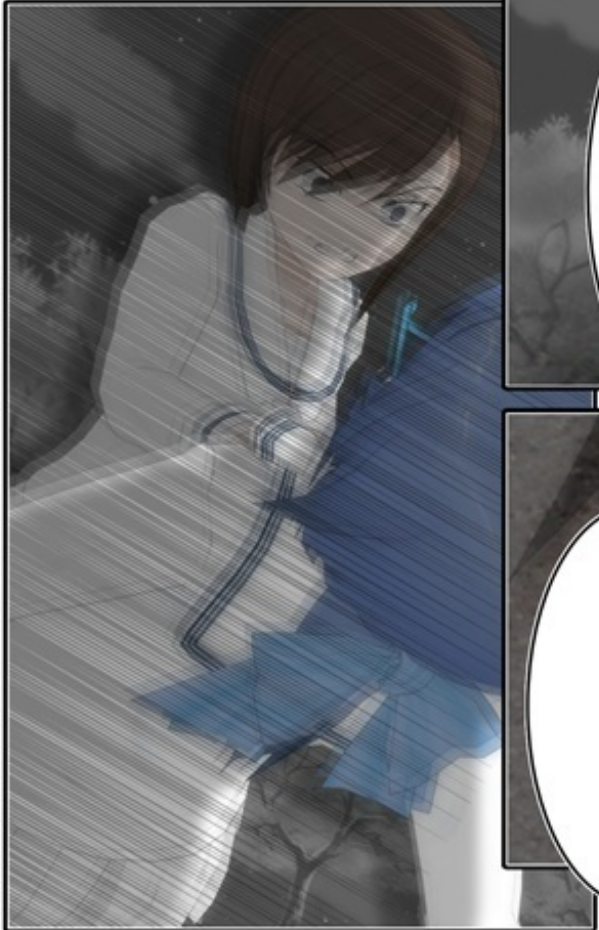
そんな！
元はといえば

あなた達が彼女を虚めて
追い詰めたんじゃない！



あなたがなんで
虚めているか
知らないけど

気に入らないだけ？
それとも何か羨ましいの？



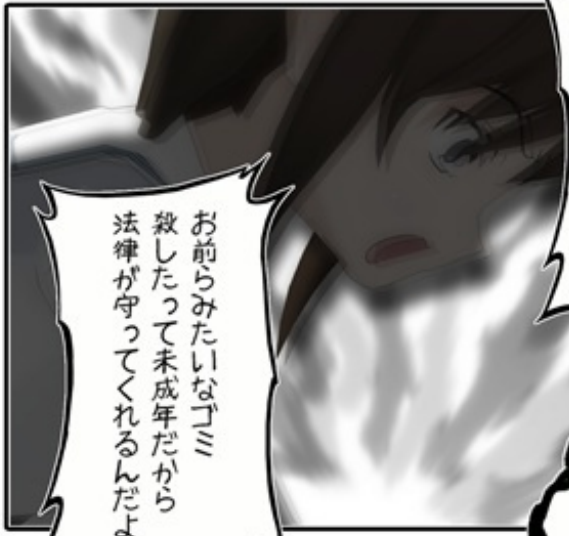
何か悩んでいるんだったら
私達なんか虚めてないで

自分の家族でも友達にでも
相談しなさいよ！



お前ら本当に
うざいんだよ！

お前ら
二人共殺してやるよ

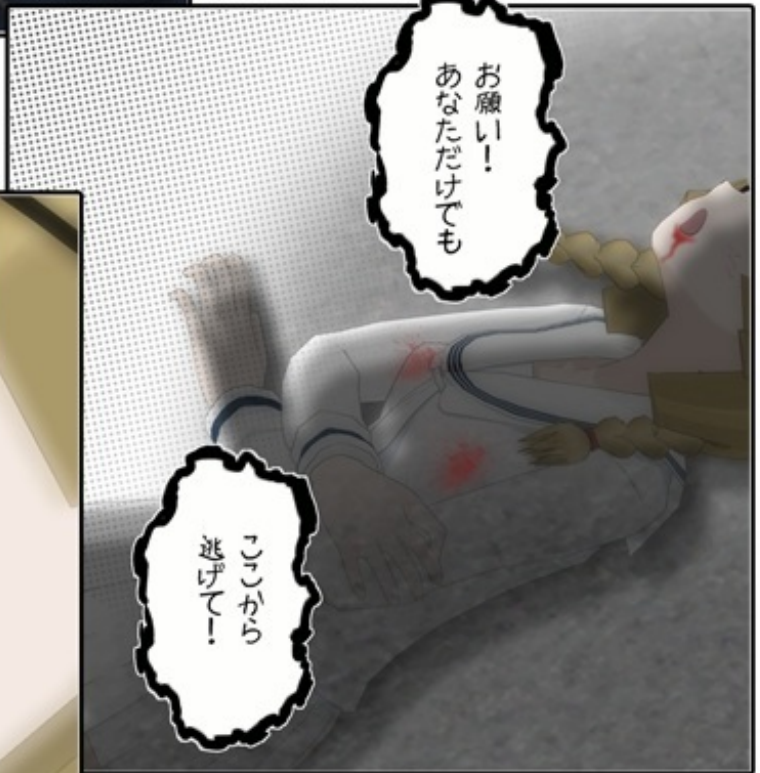


お前らみたいなゴミ
殺したって未成年だから
法律が守ってくれるんだよ

く…苦しい…
この人…本気だ！

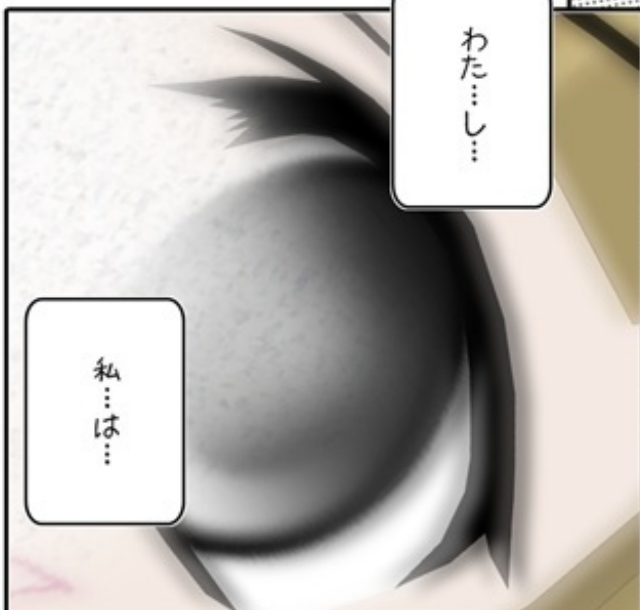


すごい…カ…！



お願い！
あなただけでも

ここから
逃げて！



わた…し…

私…は…



まずは
お友達から

一緒に学校に行ったり
おしゃべりしたり

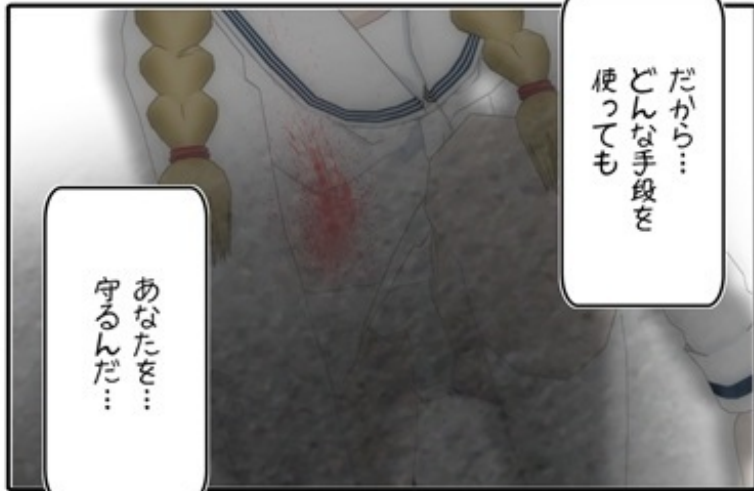


勉強したり
同じ部活で頑張っ
て
みたり



もっと一緒に
あなたと時間を
過ごしたかった

でも
もうそれは
叶わない願いに
なるでしょう

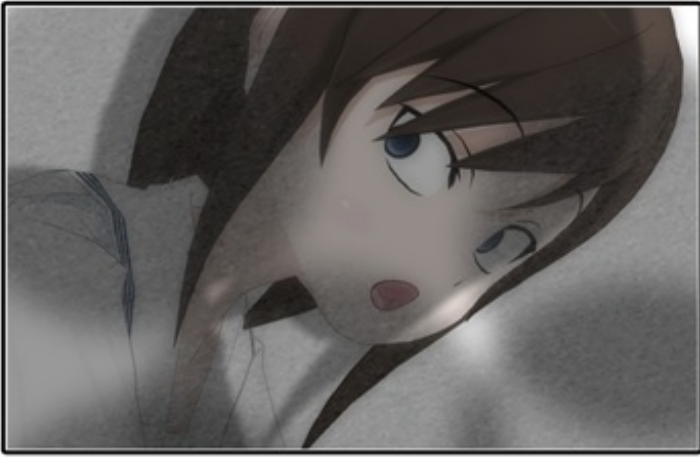


だから…
どんな手段を
使っても

あなたを…
守るんだ…

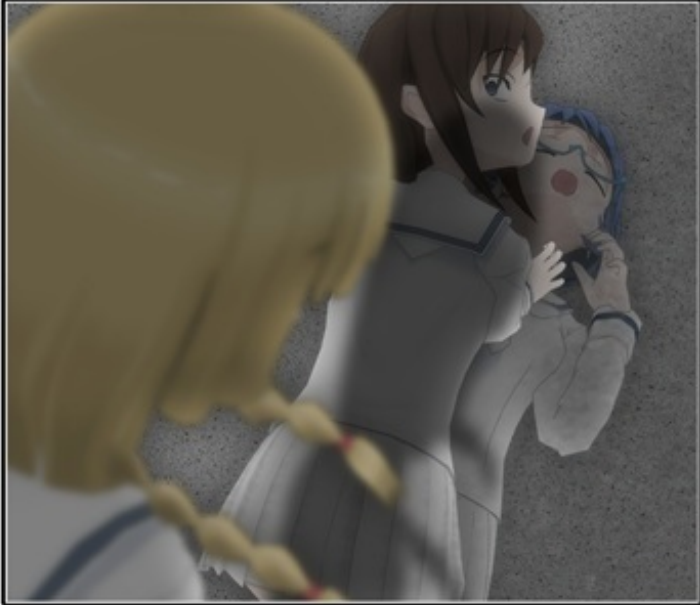


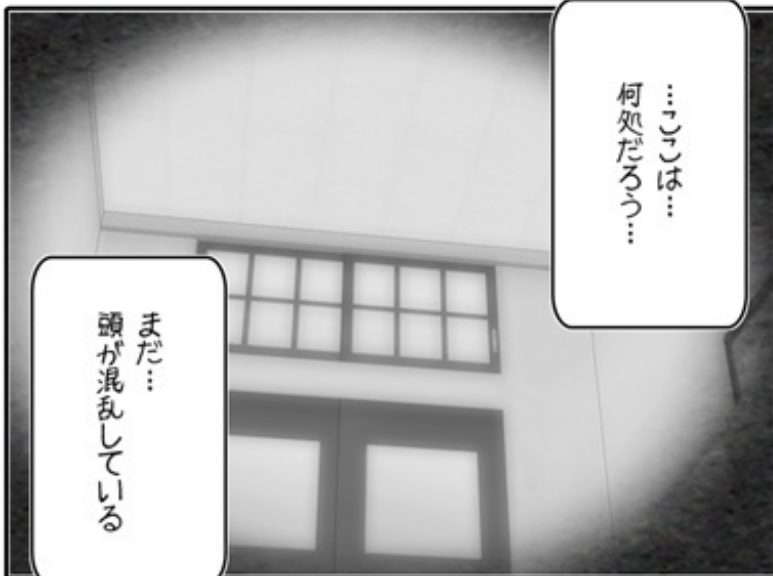
罪は
後で償います…



私が…

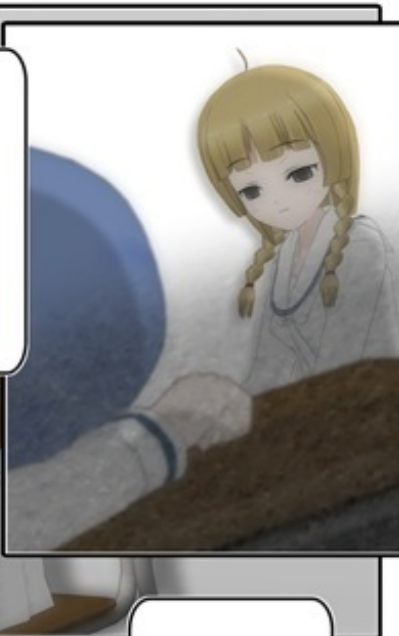
大好きなあなたを…
守るんだ…!





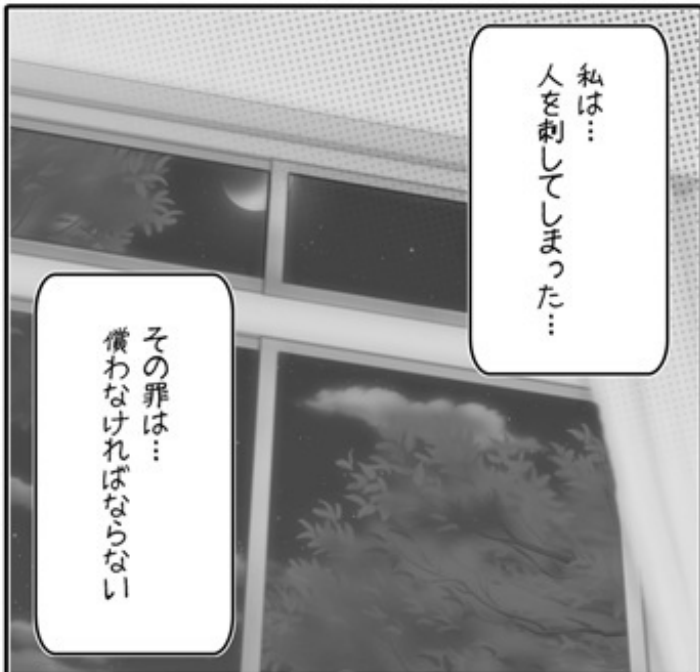
……ここは……
何処だろう……

まだ……
頭が混乱している



私はそれだけで
もう満足だ

でも彼女は
無事ここに
いる

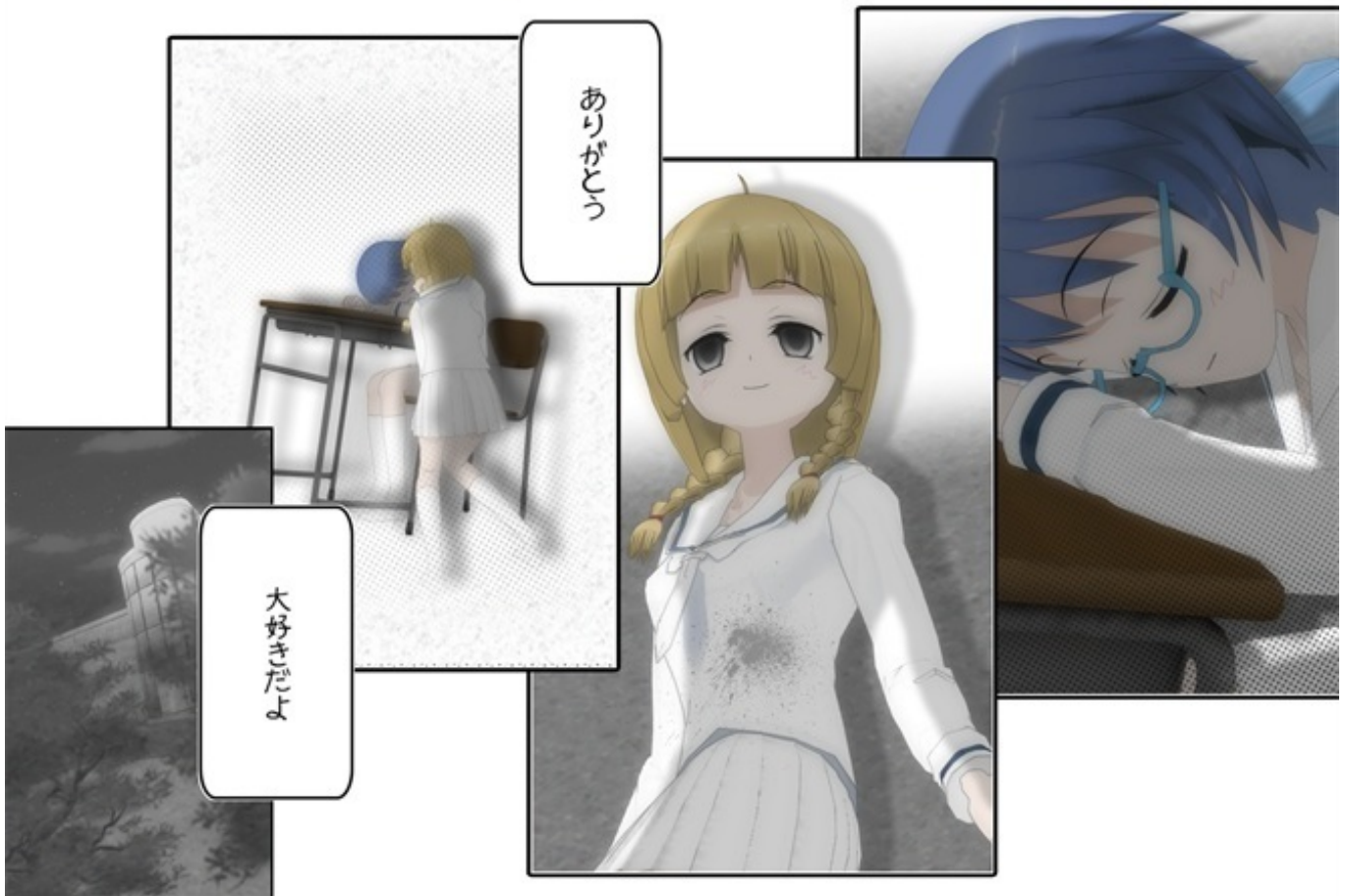


私は……
人を刺してしまった……

まだ手に感覚が
残っている……

その罪は……
償わなければならない

あれは
夢でも幻でもない
現実だ……





最後に
全てを書こう



いじめのこと
助けてくれた人のこと
人を刺してしまったこと

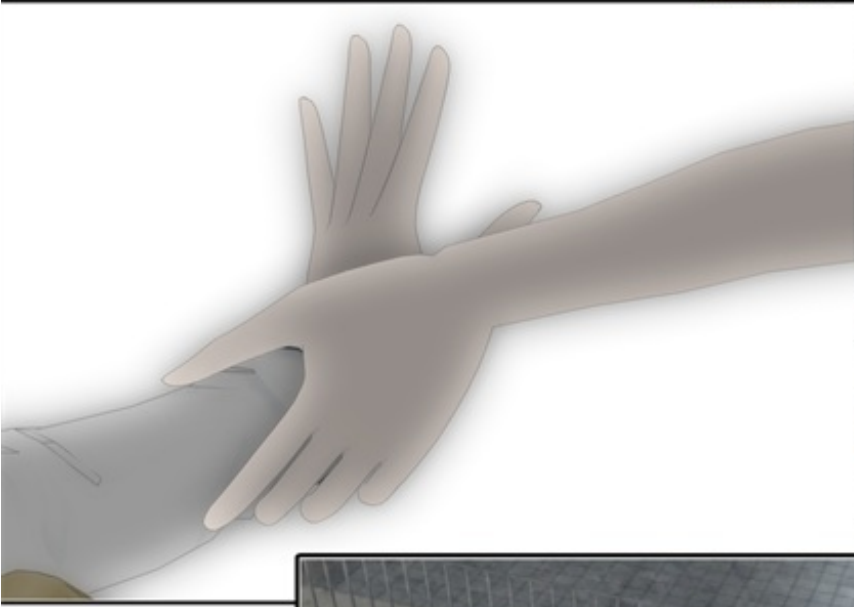
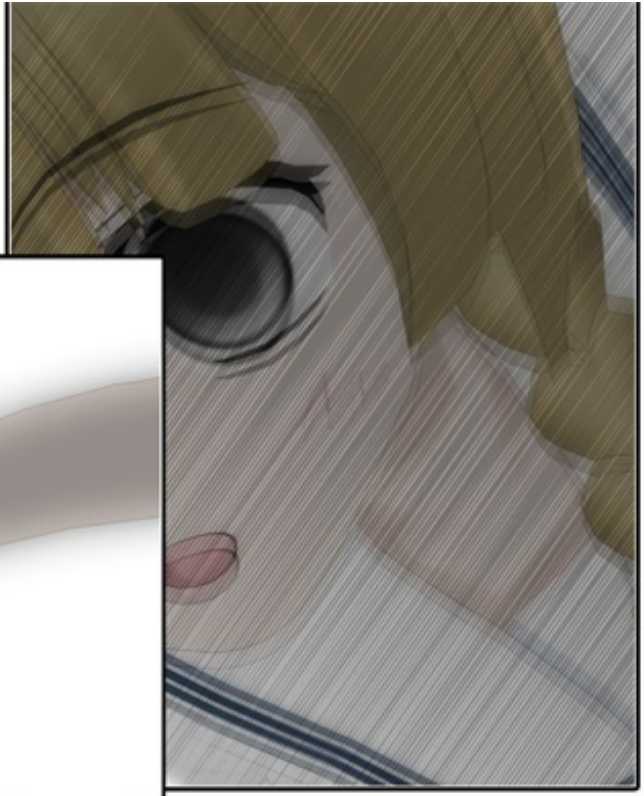


おぼろげ



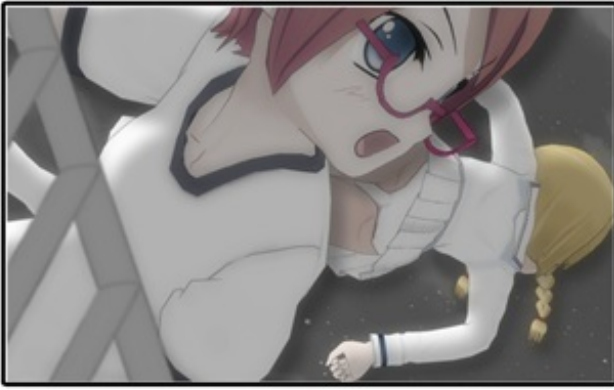
これは遺書

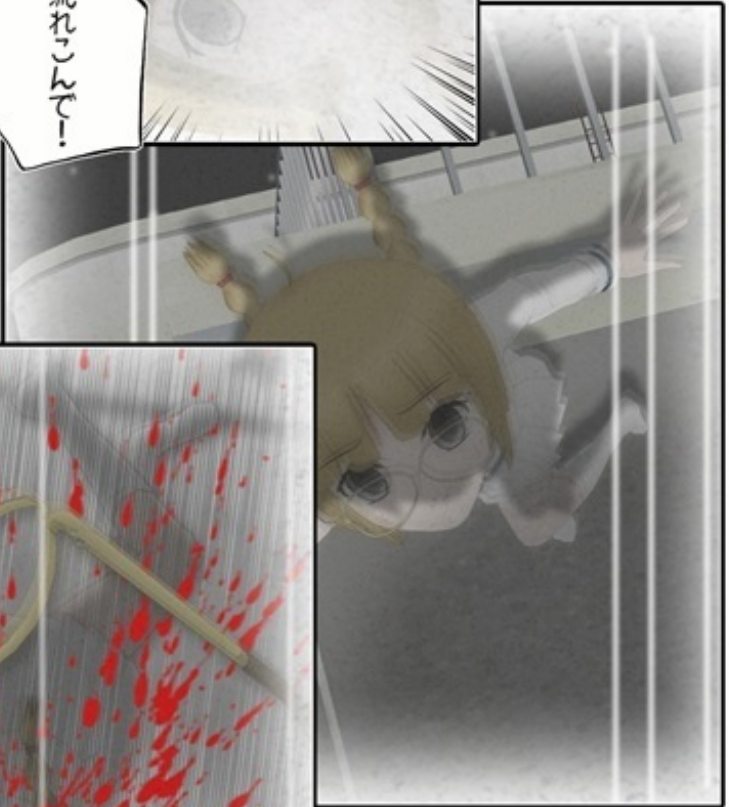
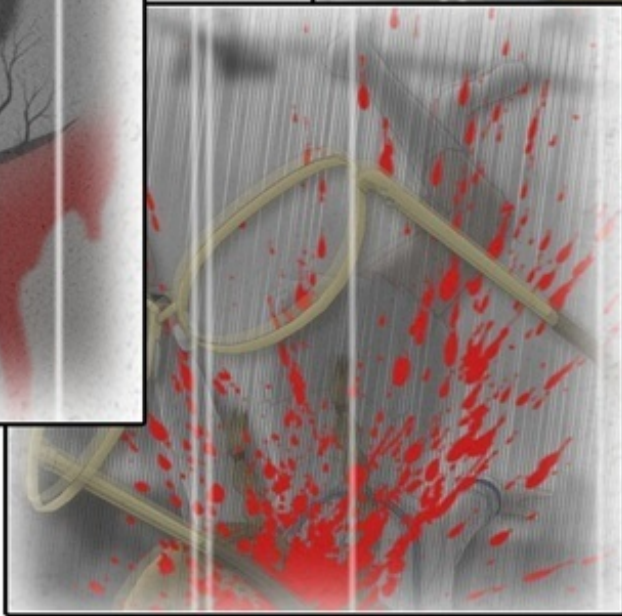
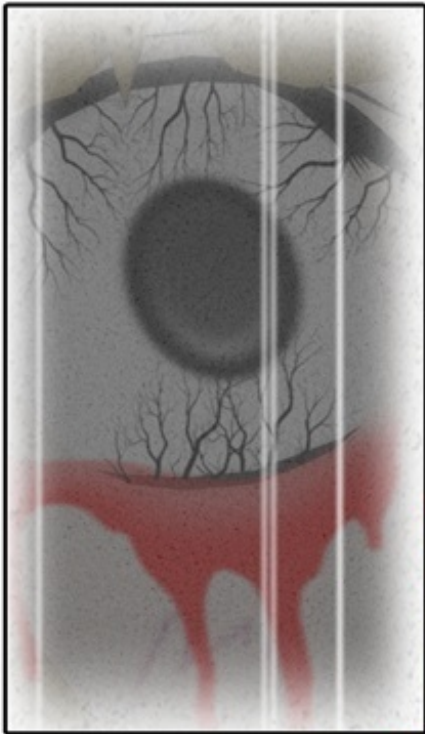
誤解が生まれないよう
私にできる最後の謝罪

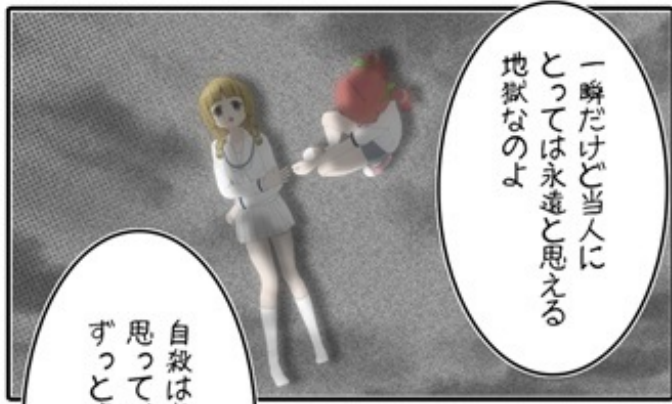


我慢しなさい

ちよっと痛いけど







一瞬だけと当人に
とっては永遠と思える
地獄なのよ

自殺はあなたが
思っているよりも
ずっと痛く



ずっと苦しく
呪わずにはいられない



悲しい
末路なのよ



……いや

こんなの……
……いや

だって……
私……生きていたら……



……



きっとまた
迷惑をかけてしまいます



迷惑をかけたって
いいのよ

だってあなたは
人間で生きているんだから



人間は支えあって
生きているの

その時は
いっぱい支えて
あげなさい

いずれ
あなたの支えが必要な
人が現れるわ

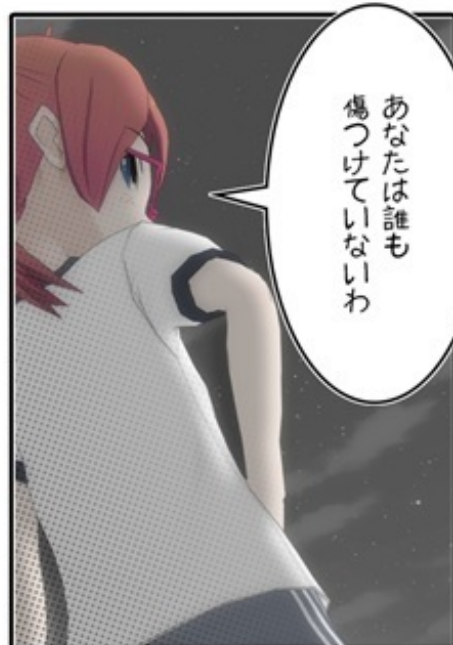






未来観測研究部

VOL.7



あなたは誰も
傷つけていないわ

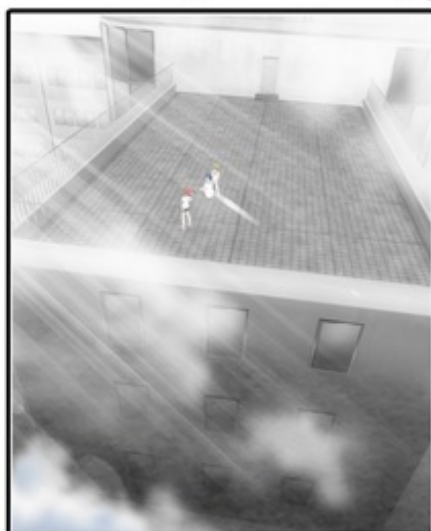


人を傷つけて
しまったことは
償わないと



私…
警察に行きます







ごさいます

ありがう



その後
今回の件は学校で
大きな問題となった

結論からいうと
主犯格だった生徒は
転校し他は嚴重注意
となった

ネットでも今回の件は
多く取り上げられ
虚めに対して学校の雰囲気は
大きく変わった気がした



結局

部員は
集まりませんでしたか



姉が創立した
部ですので些が
胸が痛みますが

他に部員がいらないなら
しょうがありませんよね



今回こそは
私の勝ちのようですね

神無月さん



約束通り
部活は同好会へ
格下げ

あなたには
正式に生徒会へ
入って頂きます



そして
あなたが遂に
私のパートナーに
なるのですね

この瞬間を
どんなに待った
ことが



まだ少し
気が早いですよ



生徒会長



残念ですが



今回も生徒会長の
ご期待には答えられ
ませんでした



未来観測研究部

<http://p.booklog.jp/book/69146>

著者：窓際ななみ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/madobenanami/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/69146>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/69146>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ